



フードパントリー

フードパントリーとは聞きなれない言葉だが、辞書を引くとホトホトは「食料品室、食器室」とある。またネットで検索してみると首都圏や大阪等で広がりつつあるようだ。西東京市でも西武線田無駅南口のすぐ側に、「わいわいフードパントリー」がこの10月に開店した。土曜と水曜の週2回、「お子さんのいるご家庭、子ども本人、バイトがなくなった大学生、仕事が減って困っている若者等々に、食品の提供」を行っている。筆者が訪れた7日水曜は19時から20時までの開店で、この活動を支援する大人たちで熱気にあふれていた▼「わいわいフードパントリー」を運営するのは「西東京わいわいネット」で、田無公民館で行われてきた「子どもの貧困と向き合う地域をつくる」をテーマとする連続講座の中から生まれた団体だ。子どもの居場所やつながりをつくることをねらいに、子どもとスタッフの大人と一緒に調理する「わいわいクッキング」を2015年3月にスタートさせている。そして17年10月からは勉強会をも開始。ところがコロナの発生にともない、今年の3月から会場に利用してきた公民館が閉鎖され、クッキング不能に▼7月から公民館での調理が可能にはなったものの、三密回避のための定員制限でクッキングは不能のため子ども食堂の形で再開。これと併行してコロナ対策として取り組み始めたのがフードパントリーである。コロナ緊急対策である「子どもの食の確保」事業の助成金を確保し、寄贈や寄付金を受けての食品の調達と配布。来年3月末までの期間限定で取組む。店舗は最近店仕舞した八百屋を借用。先行き再開発の予定だ▼中心となる女性たちの地域への熱いまなざし、思いの強さ、臨機応変の行動力には脱帽するばかり。応援しなくちゃ！(土着菌)